

## 問題にもなるかい！！

野球の清原氏が現役バリバリだった頃、タレントの卵と理ない仲になり、寝物語に自分の野球に対する思いの丈を語ったことがあった。それに対しそのタレントの卵が「私とどっちが好き？」というお馬鹿な問いを發したという。それに対し清原氏が答えたのが「問題にもなるかい！！」であった。「極めて大切な価値」というのは人によって大きく違い得るから、私だったなら「勿論君だよ」と何の躊躇いもなく答えたのに、残念だ。

「一般的に言って問題にもならないと考えられるのではないか」と私には思われることは次のようなことだ。

例えば、①沖縄基地での暴行事件の後、「11時に店仕舞いするためお店が可哀そうだ」とか、②癲癇を隠して運転し、6人の子供の死者を出した事件以後、罰則を設ける動きに対し、「規制が差別に拍車をかけ、持病を隠す悪循環がある」だとか③原子力発電を停止してしまったら、「そこで働いているひとの雇用が奪われる」とか、④北海道で原発が停まっているため、「この冬の寒さで死者が出る惧れがある」だとか！！

私にはこういった反論は正に「問題にもなるかい！！」と叫びたくなる類の矮小な利益に思われる。そのように感じるのは、これら反論の対極にある「極めて大切な価値」が私の内面で極めて大きなものだからだろう。①アメリカ兵により繰り返される暴行を断じて許さないという怒り、②運転する資格がない人間により一般の無辜の人々が殺されて良い筈がない！という叫び③④莫大な金銭的・人的被害の悲惨さが「取り返しがつかない！！」ものだという焦燥感。

こうした反論にもならない反論を口にする人々と私との差異は何処から来るのだろうか？ ひとつは、知識の有無であろう。ことを原発問題に限るならば、原発について勉強して以後、原発問題の安全性をだまし続けていた政府と電力会社に対する怒り(それは舐められたものだという思いを含んだものである)と、プルムという人類が生んだとんでもないゴミについて何も知らずとしなかった自分への不甲斐なさが沸きおこった。原子炉を冷却する為の海水を運ぶパイプは、直下型の地震が起きた場合に100%断裂する。それで一卷の終わりだ。原子炉は冷却されず、100%ムダガウする。一卷の終わりなのだ。

もうひとつは、*imagination* (想像力) の差異であろう。原発被害の要因たる放射能は無色透明・無味無臭・無限拡散、いつ降り注ぎどの程度体内に蓄積されたか何年かたってみないと解からない。チェルノブイリの場合はことの重大性に気付くのに5年かかった。

大間の原発の建設再開が決まると、函館の人々は反対のために決起集会を開くに至った。矢張り半径20km位の身近に迫らないと当事者意識というのは出てこないものらしい。しかし、放射能は無限に拡散するのだから、十分に *imagination* を働かせてその「取返しがつかない！！」悲惨さを思い浮かべるべき、現下の、我々自身の問題であるのだが。